

子どもが考える理想の先生

長崎県教育委員会が子どもたちの教育ニーズを把握するため調査を実施しました。調査は、今年7月、県内の小学校5年生以上の児童・生徒を対象にウェブ上で実施され、1万人余りが回答しました。

理想の先生の条件として「授業が分かりやすいこと」を挙げる割合が小中高校全てで最も多くなりました。理想の先生はどんな先生か、どんな先生に教わりたいかを尋ねた設問では「授業の教え方が分かりやすい」が中高生で70%を超え、小学生でも65%に達しました。次いで多かったのは、小学生では「ユーモアがある、面白い」「どの子どもにも公平に接する」がどちらも38%。中学生では、「どの子どもにも公平に接する」が46%。高校生では、「ユーモアがある、面白い」が42%でした。

学校種別に見ると、小学生は中高生よりも比較的「明るくいきいきとしている」「子どもに教えることが楽しそう」の割合が高くなっていました。一方、中高生になると子どもの意見を聞く姿勢や公平さなどを重視していました。

学校や教育への自由記述では、学習面や生活面に関して多くの意見が上がりました。

学習面では、一人1台の端末の活用、学力レベルに応じた(個別最適な)授業の実施、地域についての学習を求める声が集まりました。

生活面では、体育館へのエアコン設置、施設の改修、制服で女子スラックスの導入、相談を気軽にできる場所の設置などを訴える意見がありました。

長崎県の小中高生の声ですので、野洲市と異なる現状も少なくありませんが、今を生きる同年代の子どもたちの声として耳を傾けることは必要なことだと思われま



教員の個と集団、関係構築も大切

日本教育新聞の記事引用



自らが受け持つクラスをマネジメントするうえで、大きな鍵となるのが「落ち着き」と「指示が通る」です。どのような特色ある教育活動でも、それを支えるのは教師の指導スキルです。様々な経験を積む中で、教師一人一人が生み出す独自の「わざ」といえるかもしれません。子どもにとってわかる授業をつくりあげる際にも欠かせない力の一つになります。

そこでまずは、「学級のきまり」(学習スタンダード等)を見直してみてもいいでしょうか。もちろん学校教育目標達成に向かう共有の部分は盤石なものではなければいけません、それができて一人一人の教員の多様性が認められる雰囲気も出てくるはずですよ。

例えば、小学校の学年主任の立場であれば、隣のクラスを見て、「あの点を踏まえてうちのクラスとは違う学級経営をしているんだな」という認識ができるでしょう。そのような気付きがあれば、頭ごなしに「これはダメ!こうしなさい」といった柔軟性が見られない自分流を押し付ける叱責や指導もなくなっていきます。また、ゆとりを持った指導・助言ができるようにもなります。このような学年主任であれば、同じ学年を組みたいと思う若い教員や再雇用教員も増えるはずですよ。学校の経験豊かなよきモデル教員とはこういうことではないのでしょうか。

こうしたことができて、集団の中で教師一人一人が輝ける、ゆとりある組織になっていきます。また、互いの思いをぶつけるだけの一方的なものではなく、対話できる風通しのよい職場にもつながります。子どもにだけ視点が向くのではなく教師の個と集団の関係構築も大切なことの一つです。これは、就学前でも同じことです。職場の雰囲気がよい園・学校は、保育者・教師が健やかに職務に当たり、子どもも生き生きと健全な園・学校生活を送っていけるといえるでしょう。

健やかな子どもの成長を促すように、経験年数や年齢に捉われず、保育者・教師同士の成長を促し合える職場でありたいものです。





まなび野洲チャレンジ！ 3

正しい答えの番号はどれでしょう。答えは最下段に載せています。

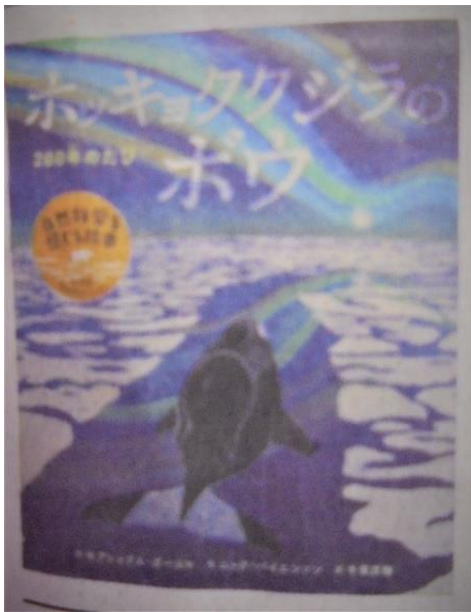
野洲川は、琵琶湖に流れ込む河川のなかで、最も長い河川です。
長さは何kmですか？

- ①135.6 km ②95.6 km ③65.3 km ④35.6km



読書の秋に③ おすすめの一冊

「日本教育新聞」
書評等より

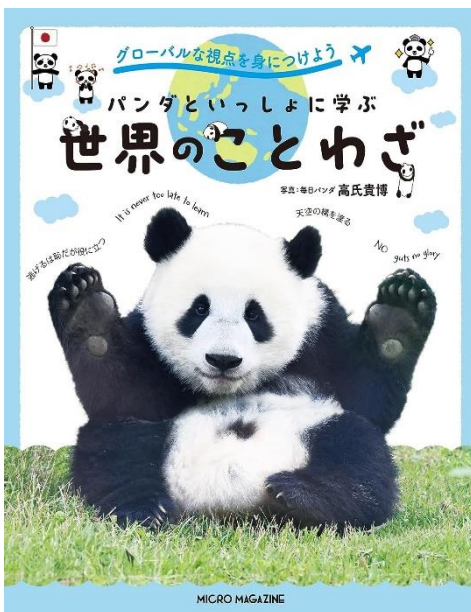


『ホッキョククジラのボウ 200年のたび』
アレックス・ボースマ 作・絵 ニック・パイエンソン 作
千葉 茂樹 訳 出版社 小学館

一生を北極海だけで暮らす、ホッキョククジラ。大人になると体長は18メートル、体重は100トンになり、200年以上生きる個体もいます。食事は歯の代わりにある「ヒゲ」と呼ばれる器官から、食べ物をこしとります。主人公は、ホッキョククジラの「ボウ」。今から200年前に生まれました。捕鯨船につかまりそうになったり、暮らす所に石油を掘る施設ができたりました。

本書は鯨の一生を通して人間により環境が変化していく様を描きながら、それが生物に与える影響も考えさせます。

巻末には詳しい生態などが掲載されています。自然を感じられる絵本です。



『パンダといっしょに学ぶ 世界のことわざ』
高氏 貴博 写真 出版社 マイクロマガジン

はるか昔から言い伝えられてきたことわざには、国や地域の歴史、人生の知恵などが詰まっています。世界各国のことわざを学ぶことは他国の異なる文化や人々を知る方法の一つです。

本書は、パンダカメラマンの著者が撮影した20万点の写真から、ぴったりのことわざを選び出しました。

例えば、勇気が湧くことわざとして、ロシアの「最初のパンケーキはだんごになる」を紹介。「失敗は次の成功につながるものだ」という意味です。似たような日本のことわざも扱い、ここでは、「失敗は成功のもと」を掲載してあり、対比できて面白いです。

各章末には、「パン先生のパンダのお話」が掲載されパンダについても学べます。パンダに癒されます。